

四国 88 箇所歩き遍路第 9 回 3 日目 (以下 2 ページの写真をクリックすると拡大)

第 9 回 3 日目は 79 番天皇寺、80 番国分寺、81 番白峯寺と 82 番根香寺の 4 ケ寺、百々家旅館までの 28 キロです。



三中井 B H を出て暫らくすると八十場の水に出ます。天皇寺（高照院）の 400m 手前。南にある標高 280m の金山が、枯れることのない水を育てています。

弘法大師が八十八の泉水をもって閻伽井（あかい）とした説（八十場の水）と、景光天皇の時、悪魚の毒に悩んだ皇子とその軍兵 88 人は童子の捧げるこの水によって蘇ったとの説（八十蘇場の水）があります。



天皇寺から 7 キロで国分寺。何故か讃岐の国分寺だけが、国ではなく國の文字を使っています。

境内には福松があり、「上を見よ」の表示（写真左）。上には巨大な鳥の巣のようなもの（同右）があります。実は松葉の塊です。これが福をもたらす？左写真の右奥の松も葉がやや密集しており、いずれは福松になるのかも。



国分寺から 2 キロで山道に入ります。暫らく行くと遍路休憩所。小鳥が飛び交うので良く見たらヤマガラです。お菓子を置くと数羽が入れ替わり食べにきました。

休憩所から間もなく三叉路に出ます。右が白峯寺へ 2.7 キロ。右奥は国分寺へ 5.1 キロ。左が根香寺へ 1.8 キロ。ここから根来寺への途中に摩尼輪塔と下乗石があります。



摩尼輪塔は苦しい仏道修行の中でも特に最終の位を表す摩尼輪（塔の円形部分）四角い部分には下乗とあり、遍路道が聖地に近いことを教えています。

三叉路から道標どおりの 3 キロで白峯寺。大師堂の前には大黒天が立っていました。打ち出の小槌を思い切り振り上げ、今にも殴りかかりそうな様子が印象に残りました。



根香寺の（ごろ）は根来衆の（ごろ）と字が違います。根香寺の山号は青峰。白峯寺とともに高松市から坂出市にまたがる連峰、五色台の中にあります。青峰、赤峰、青峰、黒峰、黄峰の五峰からなっています。



根香寺の仁王門の横の林に怪獣のような牛鬼がいます。400年ほど昔、ここに住んでいた牛鬼は村人を困らせていたので、殿様が弓の名人、山田高清に退治を命じた。高清は千手観音の助けを借りて、牛鬼を見つけ出し、見事に退治した。怪獣の角は根香寺に奉納され、その菩提を弔った。この角は今も根香寺に保管されているそうです。

仁王門を通過して左に櫨の大きな切り株があります。白猴櫨（ビャクコウケヤキ）といいます。

智証大師が当山開基の時、白い猿が下りてきて、大師を守護し創業を助けた。樹齢約1600年、樹幹の周囲約7メートルの大木は昭和50年頃に枯れてしまい、保存のために根を切り、屋根をつけて生えていたとおりの位置に据えました。



また境内には大きな石が祀られています。

この石には「元禄八乙夷四月十二日」と刻まれています。

これは高松松平初代藩主、松平頼重の命日。つまり頼重の墓のようなものです。寺の言い伝えでは頼重の木像がこの下の埋められているということですが、いつ何故埋められたかは分かっていません。

根香寺を出たのが3時20分頃。百々家には二つのルートがありますが、近い方の車道を行いました。12月は四国でも日が暮れるのが早い。4時ごろには遠くの山に残照が美しく輝いていました。



車道と山道が交互に出てくる道を下り、JR鬼無（きなし）駅前の百々家旅館に着いたのが5時過ぎ。あたりは暗くなっていました。

第9回 3日目の一言日記

第79番 金華山 天皇寺(てんのうじ)



金華山摩尼珠院と号していたが、消失後、近くの高照院を移し再建。今も高照院と呼ばれる。崇徳天皇が寺に滞在中に亡くなり、天皇寺の名がついた。寺は天皇を祀る白峯宮の手前にある。

第80番 白牛山 国分寺(こくぶんじ)



讃岐国分寺。金堂跡と七重塔跡の礎石が残る。大師堂は多宝塔の中にある。本堂横には天より授かった福龍と呼ばれる霊木がある。

第 81 番 綾松山 白峯寺(しろみねじ)



勅額門の中は崇徳天皇の廟所、頓証寺殿。門には後小松天皇の勅額(重文)が架かる。頓証寺燈籠は源頼朝が寄進した。

第 82 番 青峰山 根香寺(ねごろじ)



本尊彫刻の根株が芳香を放つので根香寺。川に流れても香るので香川の県名がついた。本堂の回廊には万体観音像を奉安。